

2.福井県内で取り組まれる環境学習を見てみよう

つづいて、福井県内における環境学習への取組みについてご紹介します。

1)学校の事例

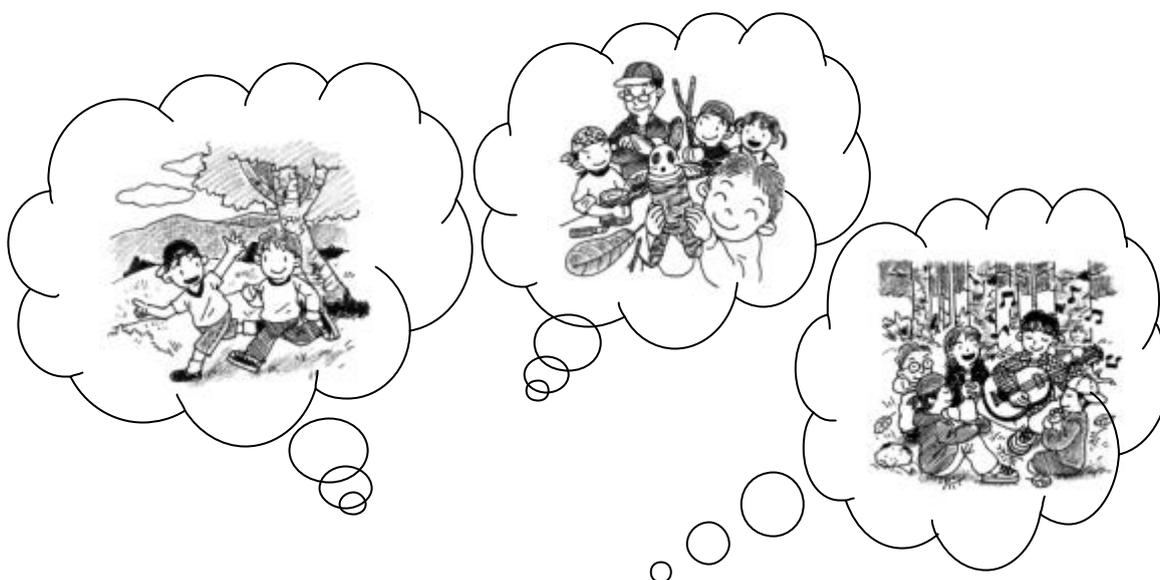
(1)福井市社西小学校(「総合的な学習の時間」をふまえた環境学習の実践)

新学習指導要領により、2002年より小・中・高校にて「総合的な学習の時間」が実施されます。福井市社西小学校はこれに先がけ、文部省・福井県教育委員会・福井市教育委員会の指定を受け、総合的な学習の時間のモデル校になりました。社西小学校では各学年にわたり、様々なテーマで総合的な学習の時間に取り組んでいます。ここでは環境学習をテーマとした、小学校6年生の授業の取組みを紹介します。

概 要

社西小学校の6年生の子供達は、はじめにこの時間を利用して「何をしたいか」をみんなで話し合いました。そして、さまざまな活動やインタビューを交えながら、地域に根付いた実践的活動を展開していきました。

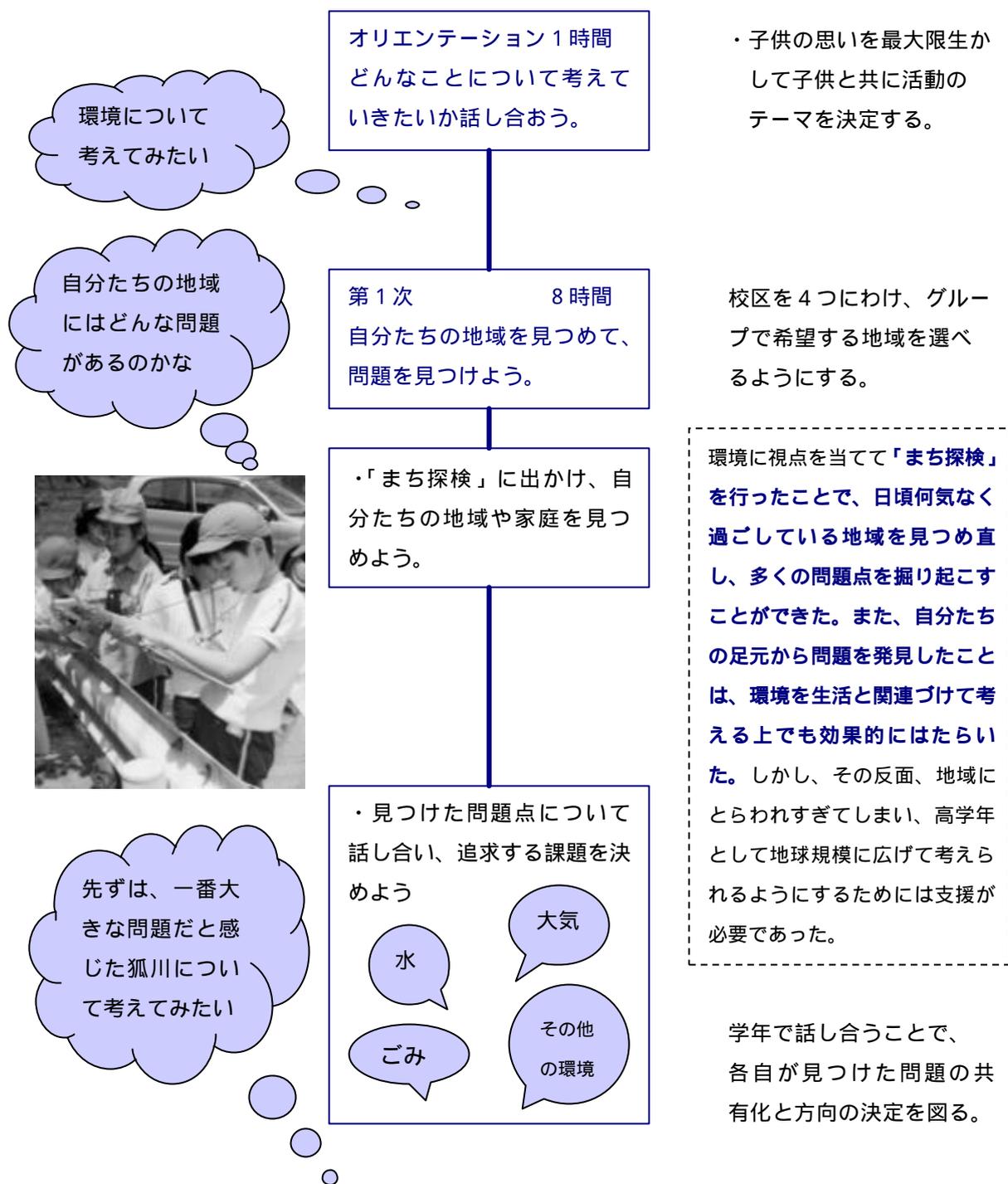
「総合的な学習の時間」のねらいは、生きる力を育てること、自己の生き方を考えることができるようにすること、様々な知識や技能を関連づけて総合的に働くようにすることなどです。この活動はそうしたねらいをふまえて構成されています。



活動のねらい

狐川を中心に、地域の環境に興味・関心を持ち多面的に追求する中で、自分たちの生活と環境との関わりの深さに気づく。さらに、この活動を通して、環境問題に対する考えを深め自分自身の生活を見つめ直すとともに、進んで解決方法を考え実践していこうとする。

活動の流れ



どのくらい汚れているんだろう

すごい汚れた。なぜなんだろう



第2次 10時間
狐川を中心に、水についてみんなで調べよう

・狐川の様子をくわしく調べよう

狐川に入って水生昆虫の調査をしたり、パックテストをしたりした。このような直接体験を通して、汚れを肌で実感することにより、子供たちは様々な課題を持ち、意欲的に追求活動を展開していった。

水温	pH	COD	PO	溶存酸素
24度	8.2	20	0.2	5

・社西地区以外の狐川の様子を調べたり外の川と狐川を比べたりしよう

実地調査に出かける。

*

	水温	pH	COD	PO ₄	NO ₂	溶存酸素
狐川起点	21度	8.0	5	0.2	0.3	7.5
中流	25度	9.0	30	0.2	0.08	4
下流	22度	8.5	30	0.2	0.07	2
一乗谷川	15度	7.0	0	0.2	0.02	10

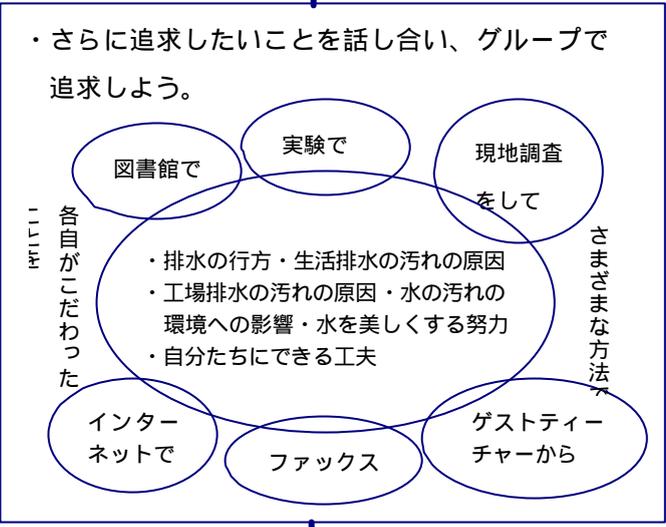
こだわったことについてもっとくわしく調べたいな

第3次 14時間
一人一人の調べたいことを追求しよう

課題解決のためにふさわしい方法や資料を選ぶように準備・連絡する。

いろいろな人が環境を守るために努力しているんだ

環境問題は、自分たちの生活と深い関わりがあるんだ



様々な方を外部からゲストティーチャーとして、お招きし、お話をお聞きする場を持つことになった。

- ・環境科学センター 内田さん
- ・ユスリカをなくす会 杉本さん
- ・環境問題に取り組むお母さん
- ・養護教諭



追求したことを学び合おう。

追求した価値を共有化したり、自分の生活を見直したりできるようにする。

<夏休みにみられた活動>

自由研究

地域環境ジュニアパトロール

1学期の活動を生かして

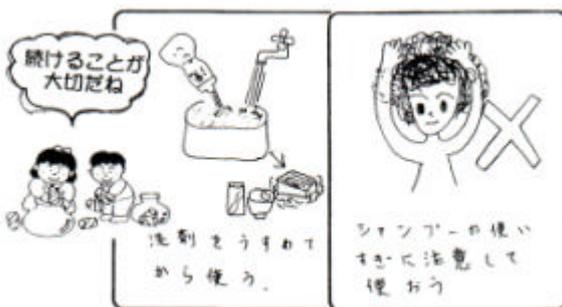
水生昆虫調査

子ども環境会議

第4次 17時間
できることから実践しよう

・1学期の学びをふりかえって、これからの方向について、話し合おう

・狐川の掃除をしたり、自分の家の排水をきれいにする工夫をしたりしよう。



・学んできたことをもとに、狐川を守ることに呼びかけよう。

1組の活動

・学校みんなに呼びかけ、「クリーン大作戦」につなげよう。

どの学年にも分かるように説明しないとイケないね。

低学年にも興味を持ってもらうには、どうしたらいいかな？

学校みんなに「クリーン大作戦」の大切さを感じ取ってもらいたいな



こんなことを

・狐川の様子・狐川の汚れ・汚れの原因・体に及ぼす影響・私たちにできること

こんな方法で

・紙芝居・クイズ・実験・劇



本当にこれできいいになるのかな

これからどのように進もうか

2組の活動

・バザーを利用して、地域の人たちに呼びかけよう。

たくさんの人に見てもらうにはどうしたらいいかな？

バザーに来た人に興味を持ってもらう方法を工夫しなくちゃ



地域の人にも狐川を守るという思いを持ってもらいたいな

こんなことを

・狐川の歴史・狐川の汚れの様子・汚れの原因・努力している機関や人・私たちの取り組み・みんなにできること

こんな方法で

・チラシ・新聞・気配り度チェック・製品紹介・クイズ
・体験コーナー



外の地域で成果が上がった例はないのかな

これからどのように進もうか

琵琶湖博物館の人から、琵琶湖をきれいにするためにどんな取り組みを行ったのか話しを聞こう

第5次 16時間
「明日の社西」を考え、提案しよう。

・もう一度地域を探検して、社西の環境で残したい点や改善したい点を見つけよう。



・グループごとに外の地域の環境への取り組みを調べよう。



・グループで提案の構想を立て調査しよう。

・調べた取り組みについて発表しあおう。

<私たちの願い>
ゴミ改善プロジェクト
 ・社西をゴミのないきれいな町にしたい。
K狐川 K環境 Pプロジェクト
 ・みんなに愛され魚のすむ狐川にしたい
メダカ・ホタルプロジェクト
 ・メダカ・ホタルの住める自然を残したい。
Road Side Tree Save プロジェクト
 ・地域にある豊かな並木道を残したい。

ピオトープで、いろいろな人が、夢を持ち、楽しみながら活動したのがいいね。

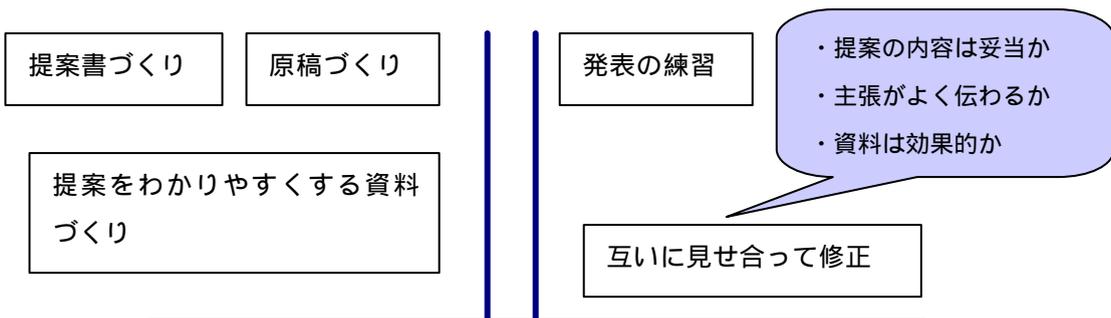
「手賀沼の汚れの1番の原因が生活排水であることが救い」ということは、狐川も希望がもてるね。

千葉県手賀沼での取り組み

クウシンサイを育てて、お金儲けをしながら水をきれいにすると一石二鳥

市・県・大学・地域の住民が協力して環境を守るために活動したのが素晴らしいな。

・学んだことを共有化して、提案に向けて準備をしよう。



・「市環境基本計画策定市民の会」に提案しよう。

ゴミ改善プロジェクト

市へ・公民館へ

K狐川 K環境 Pプロジェクト

市へ・公民館へ

メダカ・ホテルプロジェクト

市へ・公民館へ

Road Side Tree Save プロジェクト

市へ・公民館へ

今回の提案は、内容を決める段階から発表の準備に至るまで、できる限り子供の手に乗せた。

中には、突飛であったり、実現が困難であると考えられる内容もみられたが、それが子供なりの確かな調査に裏付けされたものであれば、子供の柔らかく面白い発想として良しとしたい。

提案という形は初めてであったが、どのグループも、これまでの下級生・地域に向けての発信や、「子ども環境会議」「地域環境ジュニアパトロール」での発表等の経験を生かし、自分たちの力で提案内容をまとめ上げるだけでなく、真剣に自分の住む社西のこれからの環境について考えていた。

また、その考えが、市や公民館の人に受け入れてもらえた満足感を十分に味わっていた。



第6次 4時間
活動を振り返ろう

2)公民館活動の事例

(1)福井市日新公民館

福井市内の日新公民館では、市内を流れる「底喰川」をテーマに年間を通じて環境学習に取り組んでいます。

底喰川への取組みのきっかけ

底喰川は、福井市内の日新地区を流れる一級河川です。しかし、その汚れはあまりにもひどく、投棄物も後を絶えません。そこで日新公民館では、平成9年度に次のような取組みを行いました。

平成9年 7月 クリーン・アップ大作戦
9月 敬老の日 地区内の福祉施設をめぐる「ふれあいウォーク」
のコースに「底喰川」を入れる
10月 公民館まつりにて「底喰川」の写真上映会を開催

*ただし、7月のクリーン・アップでは、底喰川の中へ入った清掃は危険だということで、実施することはできませんでした。

これを受け、平成10年度は、成人学級学習での取組みとして、年間を通じたテーマ「底喰川と美しい地域づくり」という底喰川学習のカリキュラムをつくりました。このカリキュラムは、次のような構成となっています。



平成 10 年度成人学級学習プログラム「底喰川と美しい地域づくり」

開催場所：日新公民館 他

対象：日新地区成人男女（一部 こどもの参加もあり）

参加費：無料

テーマ：「底喰川と美しい地域づくり」

ねらい：底喰川を中心に広がる学習を通じ、川の大切さ、地域への愛着心、そして現状地域問題解決の一步となるよう幅広い年層を対象に開催する。

テーマ	内 容	講 師
第 1 回 今、なぜ 底喰川？	・開講式：なぜ底喰川に 視点をあてたのか ・講演：底喰川の生い立ち、 川とのつきあい方、大切さ	ドラゴンリバー 交流会事務局長
第 2 回 底喰川 今昔物語	歴史的視点から研究家に聞く	歴史研究家
第 3 回 館外研修 先進地視察	愛知県庄内川水系香流川を見学	福井・愛知 土木事務所職員
第 4 回 底喰川 ウォーク	底喰川の源流を訪ねる (こどもたちも参加)	
第 5 回 クィンアップ 大作戦	地域内の川を中心とした清掃を 実施	
第 6 回 地域の現状と 改修計画	改修計画・地域の諸問題・底喰川 の有効利用について聞く	福井 土木事務所職員
第 7 回 底喰川 フォーラム	さまざまな立場からの美しい地域 づくりの意見発表と意見交換会	

このプログラムには延べ、500人が参加しました。参加者からは「川の生いたち」 - 「先進地視察」 - 「源流までのウォーク」 - 「クィンアップ」という流れから、川という環境への新しい気づき、これからの川のあり方を真剣に考える感想が出ています。平成 11 年度はこれにつづき、テーマを「日新を知り、日新に学ぶ - 活力ある日新をめざして」とし、さらに広い視野の講座を開催しています。

日新公民館 〒910-0017 福井市文京 5-3-25 TEL/FAX 0776-21-7225

(2)福井市旭公民館

福井市の旭公民館では、過去 10 年間にわたり、子供達による水質調査が実施されています。この水質調査はもともと手寄町の子供会が夏休みの事業として実施していたものですが、最近では旭地区の旭青少年育成会、旭公民館の少年教育事業がタイアップし、また「荒川を美しくする会」の支援とともに実施されています。

日 程： 毎年 8 月の第一土曜、日曜

対 象： 小学校高学年から高校生までです。

*平成 11 年の調査では総勢 40 名が参加しました。

目 的： ・川の中へ入り、自然を肌で感じ、心豊かな人間に成長する。

調査の流れ： 旭公民館で実施する「水質調査」の全体の流れは次のとおりです。



調査の概要：

- 1．指標生物のイラストカードを用いて、調査の内容と「指標生物」の性質と生息域、その指標について学習する。
- 2．8つの係の班に分かれ、担当班を決めた後、「亜硫酸濃度」「透明度」「川幅」「温度」「流速」「水素イオン」「外観」「化学的酸素消費量」を同じポイントで計測調査する。
- 3．川の中に生息する「指標生物」を調査する。
- 4．調査のまとめ



日程概要：

<p>1日目 14:00-16:00 公民館にて 事前学習会 16:00-16:30 第1ポイント(下流) 水質調査実施</p>	<p>3日目 調査のまとめの作業</p>
<p>2日目 8:30 集合 9:00-9:30 第2ポイント 9:40-10:00 第3ポイント 10:45-10:35 第4ポイント 10:45-11:00 第5ポイント 11:30-11:50 第6ポイント 12:30-14:00 休憩 14:20-14:40 第7ポイント 15:00-15:30 第8ポイント(上流) 17:00 公民館着</p>	<p>4日目 水質調査のビデオづくり</p>

感想；

調査を実施した子供達からは、特に下流と上流の汚濁度や生物相の違いについての感想が述べられています。

みんなでごみひろいをして荒川をきれいにするように努力すれば、きれいになるのではないかと思います。(小5)

川にたくさんの生物がいるなんて知らなくて、このはじめての水質調査をして、分かりました。はじめて見る生物もたくさんいてとてもびっくりしました。(小

去年よりだいぶ汚くなっていました。遠くから見たらきれいだなと思う川も近くから見て、調べてみたら、きたない川だったりしました。川が年々汚くなっていくので、僕が川のためにできることはやりたいです。(小6)

だんだん上流に行くにつれて、水がきれいになって生き物を見られるようになった(小6)

あんなに上流がきれいだとは思わなかった。これから川をきれいにしようと思いました。(小6)

旭公民館

〒910-0858 福井市手寄 2-1-1

TEL.0776-20-5354

3)団体活動の事例

(1)丹南地域環境研究会

丹南地域環境研究会は、福井工業高等専門学校の先生と卒業生を核に昭和 63 年に設立され、以来 10 年にわたり、地域の快適な環境づくりに関する学習・調査・研究・提言などの活動を実施しています。

研究会では、水分科会をはじめ 4 つの分科会を設け、様々な角度から快適環境づくりについて研究を重ね、今ではその活動範囲を広げ、行政の政策提言やビオトープづくりの実践などを行っています。

会員は市の環境基本計画の策定や行政や他団体が実施する各種の環境学習講座(武生市環境リーダー講座/エコシティ連続講座/田倉川インタープリターズキャンプ)などにも積極的に参加し、その成果を会報や年報で発表しています。

会の目的：

<うるおい>や<やすらぎ>のある快適な生活空間を創造するため、地域の特性や環境を構成する諸要素を活かし、人・地球にやさしく生物と共生可能な快適環境づくりについて、調査・研究活動を推進し、地域の知恵と情熱を持って<ふるさと創生>に寄与する。

主な研究地域：

丹南地域（武生市、鯖江市、今立町、池田町、南条町、今庄町、河野村、朝日町、宮崎村、越前町、織田町）

分科会：

水分科会、住分科会、緑・オープンスペース分科会、防災分科会



主な活動実績：

1.水環境問題への取組み

「武生の町用水」の現状、農業用水の歴史としての「ため池散策」などのテーマで地域と水との関わりを調査。

2.地下水汚染

武生市、鯖江市の日野川各西部において採水した水を分析し、地下水汚染の現状を明確にする。

3.河川環境マップの製作

魚類・野鳥・植物・昆虫・歴史文化の各班に分かれ、日野川流域の調査を四季を通じて年4回実施する。調査結果をもとにポケットサイズのエコマップを1万部作成する。

4.名水を科学する

丹南一円の湧水の水質分析を実施する。

5.八幡のフケ保存活動

日野川旧河道の跡である「八幡のフケ」(湧水池)をビオトープとして残す。フケの生物相の調査を実施したところ、メダカ他20数種類の水生生物を確認。

6.村国山ビオトープづくり

「たけふ市民の森ワークショップ」とともに、村国山スキー場跡地に、ワークショップ方式でビオトープづくりを実践する。



丹南地域環境研究会

〒916-0064 鯖江市下司町

福井高専 環境都市工学科内

TEL.0778-62-8299 FAX.0778-62-3416

(2)ドラゴンリバー交流会

ドラゴンリバー交流会では、九頭竜川を竜に見立て、川の流域をひとつの単位とした運命共同体ととらえています。竜としての川を元気にしていくことが流域を活性化し、自然と共存しながら豊かな生活を営むことができると考えています。

主な活動

河川周辺の美化活動

九頭竜川、九頭竜川の支流の足羽川、竹田川などを中心に、毎年、清掃活動が実施されています。河川の清掃にはカヌーも活躍しています。



水源地へのどんぐりの苗木の植栽

永平寺町役場前、安波町の一乗城山、浄法寺山麓、ハツ杉千年の森への植樹の他、ブナ林を環境保全のため買収した大野市に募金の100万円を寄付するなど、森林保全に積極的に力を入れています。

シンポジウムなどの開催

九頭竜川流域の市町村が集まり、話し合う「九頭竜川流域サミット」、専門家を招いての講座の開催、多様なパネリストを招いた「人づくり、川づくり、地域づくり」シンポジウムなども開催しています。



平成 10 年度の活動一覧

平成 10 年度の活動の特徴

- ・「第 2 回 人づくり、川づくり、地域づくり」シンポジウム開催
福井における都市用水への取組みをテーマとする。
- ・九頭竜川水系 100 年記念として、日野川右岸に 100 本の桜の植樹
- ・九頭竜川河口「三国港」の構造の歴史を出版
- ・河川清掃の呼びかけの定着、不法投棄ゴミが激減する。
- ・「川を美しくする会」の組織作りが各地で芽生える。

主な取り組み

【森林部会】【海浜部会】

ドングリ 100 本植樹 / 植樹祭 / 430 本苗木提供 / 苗場整備
「楽しもう日本海」ヨットクルージング

【親水部会】【田園部会】

「九頭竜川で遊ぼう会」共催 / 「堂田川散策」
「ソバ刈り、そば打ち体験と有機堆肥作りの講習会」 / 桜並木植樹祭

【生活部会】

竹田川、足羽川、九頭竜川河口、サンセットビーチ清掃

【研修部会】

公民館・ロータリークラブなどでの講演 / 野外講習会
シンポジウムパネリスト参加

【情報部会】

河川愛護月間イベントに参加
「人づくり、川づくり、地域づくり」シンポジウム開催

【流域会議部会】

インタープリターズキャンプ開催

ドラゴンリバー交流会

〒910-0005

福井市大手 3-13-1

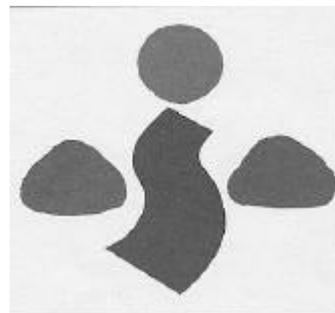
TEL/FAX 0776-20-5484

(3)環境ふくい推進協議会

環境ふくい推進協議会は、環境保全に取り組む人々の自発的な活動の推進母体として、県民、団体、企業を結びつけるネットワークづくりや地域に根ざした環境保全活動の育成を目的に、平成6年10月に設立されました。

会員数(平成11年末)

個人 1,024 人、企業 143 社、団体 64 団体



事業内容

環境シンポジウム

環境保全活動の普及と県民、団体、企業のパートナーシップを図るため、毎年シンポジウムを開催しています。

最近の開催内容

【平成9年度】

基調講演「自然の声を聴こう」
(立松和平 作家)

意見発表 一般公募による環境保全に関する意見の発表

【平成10年度】

基調講演「よみがえれ 水辺・里山・田園」

- かつば博士が語る環境問題 -

(千賀裕太郎 東京農工大学農学部教授)

パネルディスカッション「福井の環境を未来に残すために」

【平成11年度】

基調講演「自然との共生をはかる地域づくり」

(小河原孝生 生態計画研究所所長)

交流会 『リサイクル』、『環境学習』、『環境美化活動』の各テーマ

親子環境教室

【平成8年度】

自然観察会(武生市村国山)

【平成10年度】

親子エコクッキング教室

【平成9年度】

環境科学センター一日研究員

【平成11年度】

再生紙を使用した椅子づくり

4)行政の事例

(1)武生市環境学習講座

平成 11 年 2 月 17 日、武生市は福井県内市町村としては初めて環境基本計画を作成しました。この中で特筆すべきことは環境基本計画の作成に市民参加を積極的に取り入れたことでした。

この環境基本計画の作成と平行し、平成 10 年度より「**エコシティ連続講座**」、**環境教育リーダー養成講座**」を実施しています。

「環境教育リーダー養成講座」は、環境教育のリーダー養成を目的としており、第 1 回リーダー養成講座の卒業生は、「たけふ自然塾」をつくり、武生市内でのピオトープづくりなどを実践しています。今後、リーダー養成講座の卒業生が「エコシティ連続講座」などを担当するなど、活動の広がりが期待されています。

エコシティ連続講座

「エコシティ連続講座」は、環境問題やまちづくりに関心をもつ人々が、講座を通して、出会い・話し合い・共に学習し考えることにより、「エコシティ」を実現してゆく意志と行動力を持つ人の輪をひろげることを目的とした講座です。講座は 7 回連続で行われますが、連続でも興味のある分野のみでも受講することができます。講師は地域づくりのコーディネーターや大学教授など幅広い人材が担当しています。

定員：連続受講 50 人 単位受講 10 人

対象：環境問題に関心があり、地域全体のまちづくりを考える人。

受講料：連続受講 3,000 円 単位受講 1,000 円 / 1 回（平成 11 年度）

担当：武生市環境部循環社会推進課



エコシティ連続講座

第1回 地球温暖化を防ぐために
～地球環境に調和した社会、生活、
産業活動のあり方をさぐる～
地球温暖化など地球規模の根幹にある
エネルギー、資源の多消費社会を見直
し、環境に調和した社会、生活、産業
活動を築いていくためには、何をどの
ように変えるべきなのかを考えます。

第2回 グリーンコンシューマー
になるう
～生活の入口からライフスタイルを
変えるために～
決して我慢ではなく、本質的に豊か
な生活へ楽しく切り替えながら、ラ
イフスタイルを効果的に変え、そし
て企業の環境への取組みもすすめる
行動がグリーンコンシューマーです！

第3回 このままだと、
20年後のごみは
～破局を避けて、光明を
見出すためのシナリオ～
ダイオキシンなどの化学物質汚
染、大量に発生し続ける廃棄物と
処分地の不足など、このままでは
「ごみ破局」が訪れても不思議で
はありません。破局に変わる循環
構造、汚染回避のシナリオを考え
ます。

第4回 私たちの経済活動と
環境問題
～経済社会システムを
変革するために～
環境と経済は対立するというシ
ナリオをいかに描きかえるのか。
そして持続可能な発展を可能に
するためには、私たちの経済社会
システムをどのように変えてい
くのか。具体事例を紹介しながら
考えてゆきます。

第5回 ダイオキシン・
ゴミ問題を考える
～ダイオキシンを出さない
社会を目指して～
ダイオキシン類の安全基準とな
る「耐容1日摂取量」が決まりま
した。化学物質による環境汚染が
大きな社会問題となっているな
か、『ダイオキシン類の発生源と
なるゴミ問題』をみなさんと一緒
に考えてゆきます。

第6回 学校、地域、家庭へと
環境教育の輪を広げよう
～環境教育副読本を活用しよう～
武生市では、小・中学校の生徒を対象に先生方の
手で環境教育副読本を作成しています。これは、
身近な環境とふれあい、調べ、学び、考えること
で豊かな感受性と見識を養うために総合的学習
において利用することを念頭においていますが、
さらに、地域、家庭においてどのように活用して
いくかを考えます。また、編集作業に携われた先
生方を交えての対談も行います。

第7回 文化的環境資源を生かしたまちづくり
～武生の持つ環境資源と、
住みたくなるまちづくり～
利便性、経済性を優先したまちづくりから、自然や
歴史・文化を生かしたまちづくりへと人々の関心が
高まっています。武生のまちの歴史や風土にはぐく
まれた歴史的建造物を市民とともに調べ、まちづく
りにどう生かしていくか考えてゆきます。

環境教育リーダー養成講座

環境教育リーダー養成講座は、市民が「環境教育～地球とともに生きていくための新しい教育」の担い手として、具体的な環境教育活動を始めたり、インストラクターやリーダーとして参画するのに必要な考え方と技術を身につけていくことをねらいとしています。

講座では、人間関係づくり、ライフスタイル、まちづくりと市民参加、地球規模で起こっていることなどについて、体験（ワークショップ形式）を通じて学びます。また、全5回シリーズのプロセスを通じて、受講者同士のグループ形成をはかるとともに、プログラム企画にも取り組みます。講師は地域づくりや環境教育の専門家が担当しています。

定員：25名

受講料：5,000円（平成11年度）

担当：武生市環境部循環社会推進課

第1回 「自然を感じる・わかちあう」

第1回目は受講者同士が自然とふれあいながら、自然の中の美しいもの、不思議なものを感じ取る感性をみなさんと磨きあいながら、自然との豊かな関係づくりの進め方について学びます。

第2回 「まなびあうグループづくり」

環境教育を地域や学校、職場やグループで取り組む際に必要となる「まなびあい」の関係づくりの手法と考え方を実際に体験を通じて学びます。

第3回 「買い物から考えるライフスタイル」

毎日何気なくしている買い物を「環境」と「健康」という視点から考えなおしてみましょう。環境にいい商品を選ぶことは、社会をエコロジカルに変える確かな活動です。「買い物ゲーム」をしながら、楽しく奥の深い「グリーン・コンシューマー（緑の消費者）」への第一歩を踏み出しましょう。

第4回 「タウン・ウォッチング～まちをあるく」

感性を研ぎ澄ませて、武生のまちを探検しましょう。目で見るだけでなく、「こころ」で見たら、武生の新しい姿が発見できるかもしれません。「タウン・ウォッチング」のプログラムを体験しながら「都市と環境教育」の接点をみなさんと一緒にみつけないかと思えます。

第5回 「環境教育の企画をつくる」

最終回はこれまで4回の研修の体験を活かして、環境教育のプログラムを企画してみます。いったい何ができるのかは、みなさん次第です。

問合せ先：武生市環境部循環社会推進課

〒915-8530 住所不要

TEL.0778-22-3003 FAX.0778-22-7989

(2)今立町ハツ杉千年の森

エコ・ヴィレッジハツ杉千年の森は、標高 430mに位置する森林学習センターです。千年の森では四季を通じて、自然体験・環境学習プログラムを提供しています。プログラムの企画運営には福井県フォレストサポーターの会も協力しています。

また、この他にも環境問題研究事業、森林伝統文化活動事業、千年の森づくり事業など多彩な森林学習も実施しています。

施設概要

ハツ杉千年の森での自然体験と学習のポイント

自然体験

森林の中の動植物、水、土、空、四季の変化など自然の全てが教師です。自然の語りかけに心を澄まし、身体全体でメッセージを受け取ってみましょう

環境学習

洗剤や火の使い方、ゴミの始末など人間の行為のひとつひとつが環境にどう影響を与えるのかをいっしょに考えましょう

生活実習

シーツ交換、食事の配膳、後かたづけから部屋の清掃まで共同生活をするためにひとりひとりの役割を果たしましょう。

ハツ杉千年の森キャンプ場

標高 430mに位置するキャンプ場。キャンプ場にはバンガローや貸しテントがあります。



八角堂

「八角堂」は、木々のぬくもりが感じられる研修集会施設です。



創造庵

木工など手作りの楽しさを味わえる体験施設です。



森の家

山小屋風宿泊施設では、鳥のさえずりとともに、目を覚ますことができます。



年間行事日程

以下は、平成 11 年度の行事日程表です。

平成 11 年度自然体験事業

- | | |
|-----|---|
| 4月 | ワークショップ「森の中にみつけようちいさな春」(1泊2日)
春の山菜舌つづみ
みどりの日春の森ウォーキング |
| 5月 | 炭焼き体験合宿(1泊2日) |
| 6月 | バードスクール
山野草クッキング |
| 7月 | 焼き畑体験塾(草刈り) |
| 8月 | 焼き畑体験塾(火入れ)
夏の森昆虫教室
森の音楽会 |
| 9月 | 森の体験交流「森の生活」 |
| 10月 | 秋の森きのご観察会
ハツ杉「千年の森づくり」記念大会
里山実践講座(1泊2日) |
| 11月 | 千年の森セミナー「森のエネルギー新時代」(1泊2日) |
| 12月 | ミニ門松づくり |
| 1月 | 北欧のくらしと織物(1泊2日) |
| 2月 | 雪山冒険隊(1泊2日)
千年の森雪山SANKA |
| 3月 | 春休み森の自然学校(1泊2日) |



これ以外にも草木染め・手織教室 10 回、天体教室 6 回を開催しています。



実施プログラム日程例

ワークショップ(1泊2日自然体験合宿)

森のなかにみつけよう小さな春

定員 30人(小学校5年生以上)

参加費(1泊2食つき)大人5,500円こども5,000円

1日目

13:00 受付・木の名札づくり

14:30 オリエンテーション

カタクリのお花畑でクイズと紙芝居 しいたけ狩り

小さな春見つけた!水カンリンバ(あきかん楽器)づくり

18:00 いろりを囲んで夕食

たき火のまわりでナイトネイチャーゲーム

20:00 春の星座物語

21:00 入浴・就寝(森の家宿泊)

2日目

6:00 バードウォッチング ネイチャーゲーム

8:00 朝食

9:00 森の音楽会

水カンリンバ・竹笛・打楽器を使って

12:00 終了

楽しくおいしくヘルシーに

山野草クッキング

定員 20人 参加費 1,000円

万能和製ハーブのヨモギ、ドイツでガンの薬として注目されているスギナ、女性の味方アザミなど身近にある野草の素顔を紹介し、暮らしに活かす方法を学びます。

森の音楽会

~マリンバとフルートが、

みどりの風にとって~

会費 2,000円 時間 19:30~

会場 ハツ杉八角堂

エコ・ヴィレッジハツ杉千年の森

〒915-0225

福井県今立町別印 19-1-1

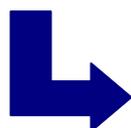
TEL.0778-42-3800 FAX.0778-42-3801

(3)福井県地域環境ジュニアパトロール

夏休み期間中、身近な環境をテーマに調査活動を行う小・中学生グループを毎年20グループ募集し、活動結果を活動報告集として発行するほか、報告会を開催しています。

ここでは、平成11年度活動報告書から、活動の一部を紹介します。

身のまわりの川や海・湖、
大気、自然、ごみ、地域の
様子などの環境分野をテ
ーマに調査します。



募集内容は第2部活用しよう(資料編) 頁を見てください。

地域の野鳥の観察

バードウォッチャーズ(福井市宝永小)

前の年の報告会で、ツバメの巣の数を調査したとの発表を聞き、宝永地区やそのまわりにはどんな鳥がいるか、また、地域の環境はどうかを調べることにしました。

A スズメのお宿はチュウリップツリー

福井駅前でのスズメの観察

集まる時間：4:30～5:00 ごろ

集まる数：1945 羽

たくさん集まる木

大きく広がっている木、ビルにはさまれた所

集まってくる理由

駅前のように、たくさんの人が
行き来するところに集まってくる。

グループの結論

都会に見られる現象が福井にも見られるということは、福井でも水田などが減って、すずめにとって住みにくい環境になりつつあるのではないかと。

B 野鳥での環境調査

インターネットで検索

足羽山でバードウォッチング

観察された：ツバメ、コゲラ、メジロ

鳴き声を聞いた：キジバト、シジュウカラ、イカル、ヒヨドリ、ムクドリ

宝永地区でバードウォッチングと巣箱づくり



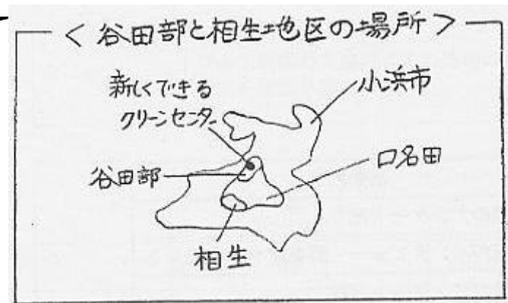
カラスが近寄らないので、安全な場所として集団で移動すると考えられ、東京などの都市によく見られる。

**ごみ処理の様子とダイオキシンに対する意識
かがやけ口名田ジュニア隊 (小浜市口名田小)**

前の年のクリーン作戦でごみがたくさんあったことや、地区内にクリーンセンターができることなどからテーマを決めた。

A ごみ処理の仕方などについてアンケート

クリーンセンターができる矢田部地区の人の方が、分別等に対する意識が高かった。ダイオキシンについてはほとんどの人が関心を持っていた。



B クリーンセンターについて市役所へのインタビュー

自然を守る工夫：ろか式集塵機	→	有害なガス以外のよくない物を取り除く
活性炭吸着装置	→	有害なガスを取り除く
有害ガス除去装置	→	有害なガスを取り除く

**学校周辺の環境について考える
グリーンレスキュー隊 (県立盲学校)**

キジの鳴き声が聞こえる自然豊かな学校の周りを調べることによって、自然とは何かについて考えたいと思った。

興味を持った木について、インターネットで調べ、デジカメで記録
シラカバ

寒い場所で育ち、福井県が南限。

日当たりのよいやせた土地に育ち、風や公害・害虫に弱い。環境汚染を測る木。

昔は薪材に使われたし、パルプの原料にもなる。花粉は豚の鼻みたいな形。

メタセコイヤ

生きた化石と呼ばれ、石炭の原木。

50年前に中国から日本へ100本贈られ、挿し木で全国に広がる。

ドングリ

拾ってドングリ銀行に送った。ドングリを集めてポイントを貯めると苗木が送られてくる。ドングリの種類によってポイントが違うことに驚いた。

ノースロップの森

森の中に孵化したばかりの卵。鳥が安心して子育てできる環境に感心。

(4)福井県教育研究所 環境教育研修講座

教育研究所では、平成9年度より、教職員を対象とした「環境教育研修講座」を開講しています。

講座は年1回開催されます。これまで、小・中学校および特殊教育諸学校の先生方が参加され、平成11年度の参加者は65名でした。平成9年度から平成12年度までの講座のテーマと内容は次の通りです。

平成9年度	
1日目	「学校における環境教育」 講師：滋賀大学教授
2日目	工場見学
平成10年度	
1日目	「学校における環境教育の指導のあり方について」 講師：福井高専名誉教授
2日目	実験・実習 ・塩素を含むプラスチックの検出 ・ソーラークッキング、エコロジッククッキング ・酸性雨に関する実験 ・浄化装置
平成11年度	
1日目	「学校における環境教育について」 講師：大阪教育大学名誉教授
2日目	実験・実習・演習 ・エコロールプレイ ・燃料電池 ・簡易浄化 ・水質
平成12年度	
	「環境教育の進め方、環境教育に関する実習」 講師：仁愛女子短期大学 助教授

問い合わせ先：福井県教育研究所
〒918-8045 福井市福新町 2505
TEL . 0776-36-4850 FAX.0776-36-4851